

令和３年第４回奥出雲町教育委員会定例会会議録

日 時 令和３年４月２１日（水）

開 会 １３時３０分

閉 会 １４時３０分

場 所 横田庁舎 ２階 第一会議室

出席委員 福田充雄教育委員 荒金勇吉教育委員 谷尻圭子教育委員
高橋美奈教育委員

委員会事務局 永瀬教育魅力課長 吉川結婚子育て応援課長

岸本教育魅力課課長補佐 長谷川教育魅力課長補佐

教育長

（年度末人事異動について）

- ・校長の異動は中学校１校、小学校２校。教頭職の異動はなし。
- ・新年度の時点では教職員の定数は満たしているが、育休代理が未定。非常勤講師で現在対応をしている。
- ・本日は定例教育委員会終了後、新しく来た教職員、昨年に赴任した教職員の中で希望した管理職も対象とした挨拶会を予定している。

※開会宣言 教育委員の出席者数を確認し、会議の成立を宣言

※会議録署名委員 高橋委員

議案第３号 奥出雲町立小中学校で勤務する職員の勤務時間に関する規則制定について

事務局

※資料により説明

教育長

県費負担教職員は資料に記載している勤務時間の割振り、休憩時間が県から示されていたが、奥出雲町では明文化されていなかった。会計年度任用職員の勤務時間に併せ県負担教職員の勤務時間の割振り、休憩時間等を明文化した。

谷尻委員

奥出雲町会計年度任用職員という言葉が分かりにくいとの意見があった。今までの嘱託職員と同じ役職と受け取る人、新たに設けられた役職と受け取る人など人によって受け取り方が違う。会計年度任用職員という言葉が分からず応募をためらっている人も居るのではないかと思う。

事務局

人員募集は総務課人事が全ての課室をまわって行っている関係でこのような表現になっている。人事と相談し、今後は分かりやすい言葉で募集したいと考えている。

福田委員	今年度の特別支援員は何名か。
事務局	今年度の枠は 22 名分あり、4 月の段階で 21 名を配置している。不足した 1 名は改めて募集を行った結果、1 名の応募があった。5 月から 22 名を配置できる予定にしている。
福田委員	学びのサポーターは何名か。
事務局	12 名。各学校 1 名ずつ配置している。
荒金委員	昨年度まで学校司書と呼んでいた学びのサポーターだが、名称変更に伴い勤務内容等の変更はあるのか。
事務局	図書の貸し出し業務に加え、子どもの居場所作り、若干の学習支援が追加された。それに伴い昨年度まで 1 日 5 時間だった勤務時間が 1 時間増えて 6 時間になり、時給を若干上げている。
教育長	<p>実質的には従来の勤務内容と変わっていないと理解している。学びのサポーター毎に違いはあったが、従来から図書館業務に加えて教室に入れない子ども、学習で躓きがあった子どもの心の居場所作りや個別の学習サポートなどを図書室を拠点として行っていた。この活動を継続してもらう。今までのメディアセンターとしての図書室の役割に今回新しく ICT の活用が追加になった。4 つの項目があるが、奥出雲町では学習に必要な図書の紹介をしっかりと行って貰い、他の項目は学校と調整して可能な範囲で活動して欲しいとお願いしている。</p> <p>配置については、一部勤務校を異動した方がいる。</p> <p>(質疑なし)</p> <p>(本案可決)</p> <p>議案第 4 号 奥出雲町学習用端末利用支援事業補助金交付要綱制定について。</p>
事務局	※資料により説明
教育長	<p>昨年度の 3 月末に 80 台のブック PC が納入され、各学校へ試験運用という形で配布を行いいくつかの質問を回収した。その後、約 880 台、小学 1 年生から中学 3 年生及び常勤教職員全員にブック PC を配布した。今回納入されたブック PC は、Google 社が提供している Google chrome という OS を使用したパソコン。アンドロイドを搭載しているスマホとほぼ同じだが、iPhone や Windows 等とは若干の違いがある。先週、改めて各学校の担当者、管理責任者等の複数の教職員を集め、児</p>

	<p>児童生徒がブック PC を自宅に持ち帰り使用した際に想定される情報漏洩やセキュリティの問題に対する新たな規則・要綱を説明した。この説明会の時点では、近日中に児童生徒の自宅にブック PC の持ち帰りをさせる予定の学校はなかった。教職員がブック PC をどのように使用できるか確認する事が先だと考えている。</p> <p>今後、集合研修が難しいため 4 月から 5 月中旬までに Zoom による遠隔説明会、提供ソフトや OS について東京からオンライン講習等を行い教職員への一般的な説明を終わる予定にしているが、使用方法が若干高度なものがあるため最終的には夏休みに若干高度な研修を予定している。ブック PC の利用方法は現場を優先し、今後は郡の教育研究会内のメディア研究会等と連絡を取り、定期的な情報交換をしながら利用方法の研修を深めていく予定。現時点では各学校の校舎内でブック PC が使用できる出来る状態。月々のデータ利用可能上限は 5G。YouTube などでの動画の視聴を仮定しておらず、あくまで学習用と仮定しているため通常の学習で利用するには問題のないデータ量だと認識している。今後、各家庭へ持ち帰って利用する場合、LTE 回線の電波が届かない家庭が当然出てくると考えている。今現在、家庭に奥出雲町通信協会のインターネット回線や他社のインターネット回線がある場合は Wi-Fi 等を利用してインターネットへ接続することが可能だが、LTE 回線の電波が届かない、インターネット接続サービスに加入していない家庭があった場合、何らかの救済処置が必要であり今回の補助金交付の制定に至った。すでに情報奥出雲との契約あり、インターネット回線を契約していない家庭に接続サービスの加入に必要な 1 万 476 円を町が補助する。Wi-Fi や電気代等は各家庭の負担になる。全ての学校が各家庭の LTE 回線の通信状況を確認していないが、先般の説明会では鳥上小学校が LTE 回線の通信状況の確認が終わっており、その結果繋がりにくい、繋がらない家庭が 3 件あったと校長から報告があった。その 3 件は家庭内にすでにインターネットに接続できる環境があり、利用することは可能。AU 等様々な会社がインターネット接続サービスを提供しているが、線引きが難しいため今回の議案では奥出雲通信協会が提供するサービスに加入する場合のみ補助を行う。ご質問、ご意見があればお願いしたい。</p>
高橋委員	<p>家庭で利用できるのはおおむねいつ頃になるか。</p>
教育長	<p>中学校と小学校、そして学年でも持ち帰りが出来る時期が違っている。家庭へ持ち帰る際の注意事項の文書も町と学校それぞれが作成し、両方配布する必要があると思っている。現在、各学校へ児童生徒が一度家庭へ持ち帰り、電波が届くか早い段階で確認して欲しいとお願いしているが、パソコンの操作に慣れている家庭、そうでない家庭があるためマニュアル等が必要だと思っている。電波の状況を確認するために持ち帰るのは比較的早い時間で可能だと思うが、各家庭で学習に利用する場合は各学校の学習状況によって異なってくるため早くても連休明けになると思っている。</p>
高橋委員	<p>折角のブック PC なので早い段階で家庭での利用はできないか。</p>

福田委員	教員がある程度 ICT を利用した指導を学ばないと難しいと思っている。
教育長	専門家の居る中学校や ICT の活用に堪能な教職員が居る人数の少ない学校は早い段階で家庭での学習が出来ると思っている。単純にブック PC で身の回りの写真を撮影してくる等の単純な使い方ならば連休での持ち帰りは可能だと思っているが、ブック PC をどのように学習に利用するかによって持ち帰りが可能になる時期は違って来る。一概に何月から持ち帰りが出来ると明言できない。
高橋委員	au へ電波の改善依頼をしているそうだが、全てが改善されるのはいつごろか。
教育長	支店長から出来るだけ早急に改善すると話があったが、場所によって改善方法が異なり、例えば近くまで電波が来ている家庭ならば電波の増幅器を取り付けるだけで改善されるが、大掛かりな工事が必要になる家庭もある。
高橋委員	また近い時期に学校に通えなくなった場合、家庭の学習でブック PC を利用したい。
福田委員	その場合は試験という形でもやっていくしかないのではないかと。 (その他質疑なし) (本案可決)
事務局	議案第 2 号 教育大綱及び教育振興基本計画について ※資料により説明。
教育長	第 2 次奥出雲町総合計画は町全体の基本的なもの。新大綱はそれを取り入れながら今までの大綱の整理、統合、追加等が今後の動きになると考えている。今ある大綱を基本とし、新しい考えを取り入れながら整理、統合する。この方向性で継続することをお願いしたい。意見等があれば定例会以外でも教育長又は担当者まで連絡をして欲しい。 (継続審議となる)
事務局	報告第 3 号 仁多地域統合小学校（仮称）建設候補地の検討状況について ※資料で説明 令和元年度 9 月当初、仁多地域統合小学校の建設候補地として仁多中学校の隣接地を予定していたが、土砂災害警戒区域に該当していたため凍結となった。令和元年度 11 月、12 月頃、定例教育委員会に例示を出し意見を伺ったが、以降は話を整

理できないまま今に至っている。教育委員長就任後、教育委員会、町としてどのように整理するか出来るだけ早く示すべきと指示があった。

当初は3月頃に候補地を示そうとしたが、整理が出来ず本日、教育委員会の中で整理したものを提示する。仁多中学校の隣接地を建設候補地にした際、教育委員会から隣接地に建設するメリットを説明した上で移転する方向で進めていた。平成30年6月時点で三成小学校の耐震力不足、特別教室不足、教室と職員室の位置関係、移動のスムーズさ、敷地内に出入口が多いため不審者対策が難しい等の課題があった。当初、教室棟のみの解体・新設、他はある程度の改修での対応を想定しており、それを前提に現地での建て替えを行った場合、改修のみでの対応の難しさ、仮設校舎の必要性などのデメリットを挙げていた。隣接地に移転することで課題・デメリットを解決した上、三成公園の活用、将来的な小中一貫教育の可能性が残ると説明をしていたが、改めて検討を行い現在は耐震力不足の教室棟や特別教室の不足などは場所に関わらず、きちんと建設をすれば解決すると改めて認識し直した。教室と職員室の位置関係の問題も当初の候補地や新しい候補地であれば新たに建設する、現地であっても管理棟・教室棟の解体・新設を行えば解決し、管理棟を残す場合でも管理棟の使用方法を変えて新設する教室棟に職員室を設ければ解消する。児童の移動も同じ方法で解決すると思っている。敷地内への出入り口が3カ所ある件は周囲をフェンスで囲えばある程度は解決すると思われる。

他の候補地では上記は問題にならないが、現地での建て替えを検討する場合でもこの対応をすればクリアできる部分は出てくる。しかし、現地での建て替えであれば仮設校舎の建設が必要になり経費が増加する。隣接のメリットとして三成公園の活用、同施設での小中一貫教育の可能性を挙げていたが、児童用の体育館の新設、砂地の校庭の確保のための用地取得、場合によってはのり面工事等の必要が出てくる。平成30年度に説明をした時点から新たな検討事項が出てきていると認識を持っており、教育委員会として以前の検討事項と現在の検討事項の変更点を明示しなければならない。

事務局として新たに整備する施設について小中一貫教育及び義務教育学校を受容する事は必須ではないと考えている。三成公園施設の活用は検討事項に含めず、新たな候補地を検討するならば土砂災害警戒区域外の三成地区の市街地、又はその周辺で比較定創設しやすい場所が候補になる。平成30年度時点では、教室棟・管理棟を共に解体・新設する事を想定していなかったが、今後は選択肢の一つとする。再編後の学校施設は最低でも下記の要素を満たしている必要がある。再編後の児童数が許容できる広さの校庭、児童が専用で利用できる体育館、安全に登下校できるバス停。どこに建設する場合でもこれらは確保しなくてはならない。全ての小学校が再編に同意したことを前提とした場合、再編後に必要な施設の規模は通常学級が12学級、特別学級が4学級と想定され、施設面積は4,263㎡程度が必要と想定される。現三成小学校の敷地面積は2,537㎡。国の補助金対象となる面積の上限が4,600㎡のためほぼ想定内の施設面積であると認識している。以上を踏まえて今後検討すべき候補地として1、仁多中学校の隣接地、2-1、新候補地として土砂災害警戒区域外の山林、2-2、新候補地として土砂災害警戒区域外の田、3、現三成小学校敷地内

	<p>で体育館以外の解体・新設、4、現三成小学校敷地内の教室棟のみを解体・新設し、管理棟とランチルームをそのまま使用する方法の5つを検討している。検討していく中でそれぞれの候補地で対応が異なってくるとの認識があり、対応する事項が多い場合は大変だと認識もある。</p> <p>5月に開催を予定している総合教育会議ではこれらの検討事項を踏まえた詳細な資料を提示し、町長と共に最終的な仁多地域統合小学校の建設候補地を決定したい。</p>
教育長	<p>結果的に町有地で賄えず、候補地全てで用地取得が必要になった。総合教育会議で意見を聞きながら町として候補地を絞りたいと考えており、本日はその情報提供。金額、用地の広さ、民有地の取得年限等が今後資料に追加されていく。仮に1, 2であれば仮設校舎は不要だが、再編完了を予定している令和7年4月に間に合うか不明。布勢小学校、三成小学校は耐震改修が未実施の為、児童の安全を考慮して未耐震の対応は必要。総合教育会議で意見を聞き、最終的に出た結論を議会及び校区別協議会の代表者会で発表する予定。令和7年4月時点では通常学級を12学級としているが、その後は1学級ずつ減少し、当面は10学級から11学級で継続すると予想している。特別学級は知的・情緒は必須であり、場合によって視界不自由、聴覚障害などを含めると4学級ないし5学級必要と想定している。ご意見、ご質問はあるか。</p>
谷尻委員	<p>現三成小学校に図工準備室が2部屋あるが、部屋数は規定等で決められているのか。</p>
事務局	<p>規定等はない。新校舎のランチルームも広い面積をとっているが、今後変更する可能性がある。</p>
福田委員	<p>新校舎ではコンピュータ室が0になっているがこれはなぜか。</p>
事務局	<p>基本的にGIGAスクール構想の中でコンピュータ室という形ではなく、教室で授業すると想定しているため計上はしていない。</p>
教育長	<p>端末が1人1台配布されているためコンピュータ室に集まる必要がない。</p>
谷尻委員	<p>新敷地として土砂災害警戒区域外の山林、田が候補に上がっているが、土地はある程度決まっているのか、これから決めるのか。</p>
教育長	<p>新敷地を決めるにあたり、バス路線の増加を避けるため現三成小学校校区の児童が徒歩で通える範囲を想定している。そうすると横田方面、雨川方面、阿井方面、山間部になるが布勢方面になり、更に土砂災害警戒区域外、平地がある場所となると場所が限られてくる。2、新敷地の場合、田を仮定した場合、広い面積を買収する必要がある、山林を仮定した場合、有害鳥獣の出没の想定を考えなければならな</p>

	い。総合教育会議では具体的な場所を提示する予定。
谷尻委員	教育委員会としては現小学校の敷地以外も案として出したいということか。
教育長	ここありきではなく、用地取得の必要性やかかる費用などを調査した上で検討をしなければ町民の納得は貰えない。100%の納得はないだろうが、ここが一番いいだろうと結論を出してもらうにはこの程度検討は必要。1、2を仮定した場合、用地取得などで令和7年4月までに新校舎が建設されるか分からない最中、三成小学校、布勢小学校に我慢を強いることは出来ない。耐震も含めて考えなければならない。
福田委員	5月の総合教育会議ではどの程度の結論をするのか。
事務局	総合教育会議で最終決断をする。どのような検討経過を経たか示さないと町民は納得しないと思っている。校区别協議会で提示できる内容を総合教育会議で決定する。
教育長	総合教育会議の場で検討内容をいきなり協議するよりこの場で情報提供を行い、総合教育会議の場で質問等をしてもらう流れが良いと判断し、今回の情報提供を行った。今回、金額的な項目は掲載していないが、現在進行しており、総合教育会議の場では提示する。その場で最終的な判断をして欲しい。
谷尻委員	3の案では体育館以外を新築するそうだが、体育館は新築しないのか。
事務局	現敷地内の体育館をそのまま使用する。
谷尻委員	現敷地の体育館は日が当たらず寒い。元は現在ランチルームが建っている場所に体育館があったが、なぜあの場所に体育館を建設したのか。
教育長	建築候補地が決定した後、設計段階でそのあたりの考慮が必要になると思っている。安全性の確保、工期、現時点で通常学級を12学級と想定しているが、20年30年後は児童数が減少すると想定している。その中で教育環境を維持していく方法を考えていかなければならない。町所有地だからと辺鄙な土地に校舎を建築すれば毎年有害鳥獣の対策を考慮しなければならない。
	(その他質疑無し)
事務局	その他連絡事項 ※事務分掌、資料で説明 ※新規職員あいさつ

福田委員	<p>(その他)</p> <p>吾妻山キャンプが無くなって３年程度になるが、キャンプ場が荒れている。以前は教育キャンプがあった兼ね合いで教育委員会が管理をしていたが、教育キャンプが無くなった後の処理は草刈りやトイレ管理は商工観光が行っているが、キャンプ場の草刈りやテントサイドの笹刈りはほとんどされていない。長い間整備をしてきた場所なので町としてどのように対応するか町長を含めて検討して欲しい。</p>
事務局	町全体で対応になる。
教育長	<p>ALT だが、本来であれば２年任期で動いているが、本人たちが了解したため、今年度も２人がやる。CIR についてはインドの国際交流員でももとはインドのホッケーチームの招致ということだったが、一年間延期となったので期限は８月に期限を迎えるが、それまでは国際交流員として活動を続けてもらう。</p>
事務局	<p>* この後の挨拶会について説明</p> <p>(会議終了)</p> <p>< 次回定例会は５月１８日（火）午後より（予定） ></p> <p style="text-align: center;">会 議 録 署 名</p>
署名委員	高橋 美奈
教育長	松田 武彦